

広告



手話

Sign Language

石狩翔陽高等学校ボランティア局

主要な活動は、手話のほか学校周辺のごみ拾い、地域のお祭りのお手伝いなど。同局の手話への取り組みは平成22年から始まり、学生時代から手話を続ける顧問の生田政志教諭の指導のもと、毎年手話検定や手話スピーチコンテストに応募するなど、積極的に活動しています。3/6(金)には同局の卒業生が石狩中学校の3年生に手話の出前授業も行いました。

手話「アイ・ラブ・ユー」

「石狩市手話に関する基本条例」の施行から1年 手話と向き合う高校生たち

石狩翔陽高等学校ボランティア局

昨年11月、鳥取県で「全国高校生第1回手話パフォーマンス甲子園」が開かれました。高校生が手話で歌やダンス、演劇などを競う大会で、全国から選ばれた20チームが頂点を目指し、熱い手話パフォーマンスを繰り広げました。

その中にわがまちの高校生・石狩翔陽高等学校ボランティア局の姿もありました。手話条例を制定した市町村に与えられる特別枠で出場した局員たちは、聞こえない人にも楽しんでもらおうとステージライトを駆使し、YOSAKOIソーランも盛り込むなど、見て楽しいパフォーマンスを元気に披露しました。

「運動部並みに居残り練習をして頑張りました」と振り返るのは局長を務める谷内田詩乃さん。「今では英語の勉強中も、手話ではどう表現するのかな? つい考えてしまうほど手話が好きです」

そんな谷内田局長を頼もしく見守る前局長の金丸琴音さんは「条例ができ、石狩では小学生や中学生も手話を学ぶ機会が増えました。こんなふうに手話が広まり、皆にとつて身近な言語の一つになればすきですよね。卒業しても、ここで覚えた手話が誰かの役に立てばいいなと思います」と目を輝かせます。

手話を通して視野が広がったという2人。その手話がいきいきと使えるまちになるためには、若い人たちの理解が欠かせません。条例施行から1年。その基礎づくりが学校や幼稚園などで始まり、手話でつながろうという市民の気運も高まっています。